



2018年3月期

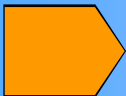
# 決算補足資料

証券コード：6908

2018年5月8日

イリソ電子工業株式会社



-  I . 2018.3期 通期連結決算概要
- II . 2019.3期 連結決算見通し
- III . 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

## 車載市場向けを中心に好調。売上、利益ともに過去最高を更新

- ・ 売上面では前期比12.5%増。今期は毎四半期100億円を超え、通期でイリソ史上初めて400億円を突破。期初計画より5.6%上回る。車載市場、インダストリアル市場が堅調に増加した
- ・ 利益面では、売上の増加と原価低減活動、円安の影響により増益となり、営業利益率は前期比2.2ポイント増の19.9%となった

### 【市場別】

- ・ 車載市場：ADASの進展により搭載が加速している安全系(カメラ・レーダー)向けや三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move™”を含むパワートレイン系が好調。  
電装化、ADAS、電動化の影響で伸びてきたカーエレクトロニクス分野が、初めてAVN分野を上回る売上へと成長
- ・ インダストリアル市場：中国を中心としたFA機器の需要増により、好調を維持。PLC、サーボアンプ、インバーター向け等で増加

### 【地域別】

- ・ 国内：車載市場、インダストリアル市場が好調で増収
- ・ アメリカ：車載市場でカーAVN分野、カーエレクトロニクス分野ともに増収
- ・ 中華・韓国圏：カーエレクトロニクス分野、インダストリアル市場を中心に増収
- ・ 欧州：車載市場でカーエレクトロニクス分野が安全系の増加により増収

### 【トピックス】

- ・ 中国 江蘇州に建設した南通工場が5番目の生産拠点として開工

## 2. 2018年3月期連結業績(前期比)



単位：百万円

	17.3期	18.3期	前期比
売上高	37,547	42,248	4,701 112.5%
営業利益	6,661 (17.7%)	8,426 (19.9%)	1,764 126.5%
経常利益	6,750 (17.9%)	7,872 (18.6%)	1,121 116.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,875 (13.0%)	5,456 (12.9%)	580 111.9%
EPS	207.16円	230.47円	
為替レート 期中平均	ドル 109.03円 ユーロ 119.37円	110.81円 129.45円	1.78円 10.08円



### 3. 売上高詳細(市場別)



単位：百万円

		18.3期	前期比	構成	増減要因
オートモーティブ(車載)		35,832	112.8%	84.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ADASや電動化、電装化の進展を背景にエレクトロニクス分野が増加。AVN分野を上回る売上へ</li> <li>・ ADAS関連で安全系(車載カメラ、レーダー)向けが引き続き堅調で、前期比約150%</li> </ul>
区	AVN (カーAV、ナビゲーションシステム等)	17,209	104.5%	40.7%	
分	エレクトロニクス (安全系、電装関連、駆動系等)	18,263	121.7%	44.1%	
コンシューマー (OA、ゲーム機、デジカメ、携帯電話、TV等)		4,172	100.8%	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ OA機器(プリンター、複合機)向けが増加</li> </ul>
インダストリアル (産業機器等)		2,244	136.8%	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PLC、サーボアンプ、インバーター向け等で増加。</li> </ul>
合計		42,248	112.5%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外比率79.0%</li> </ul>

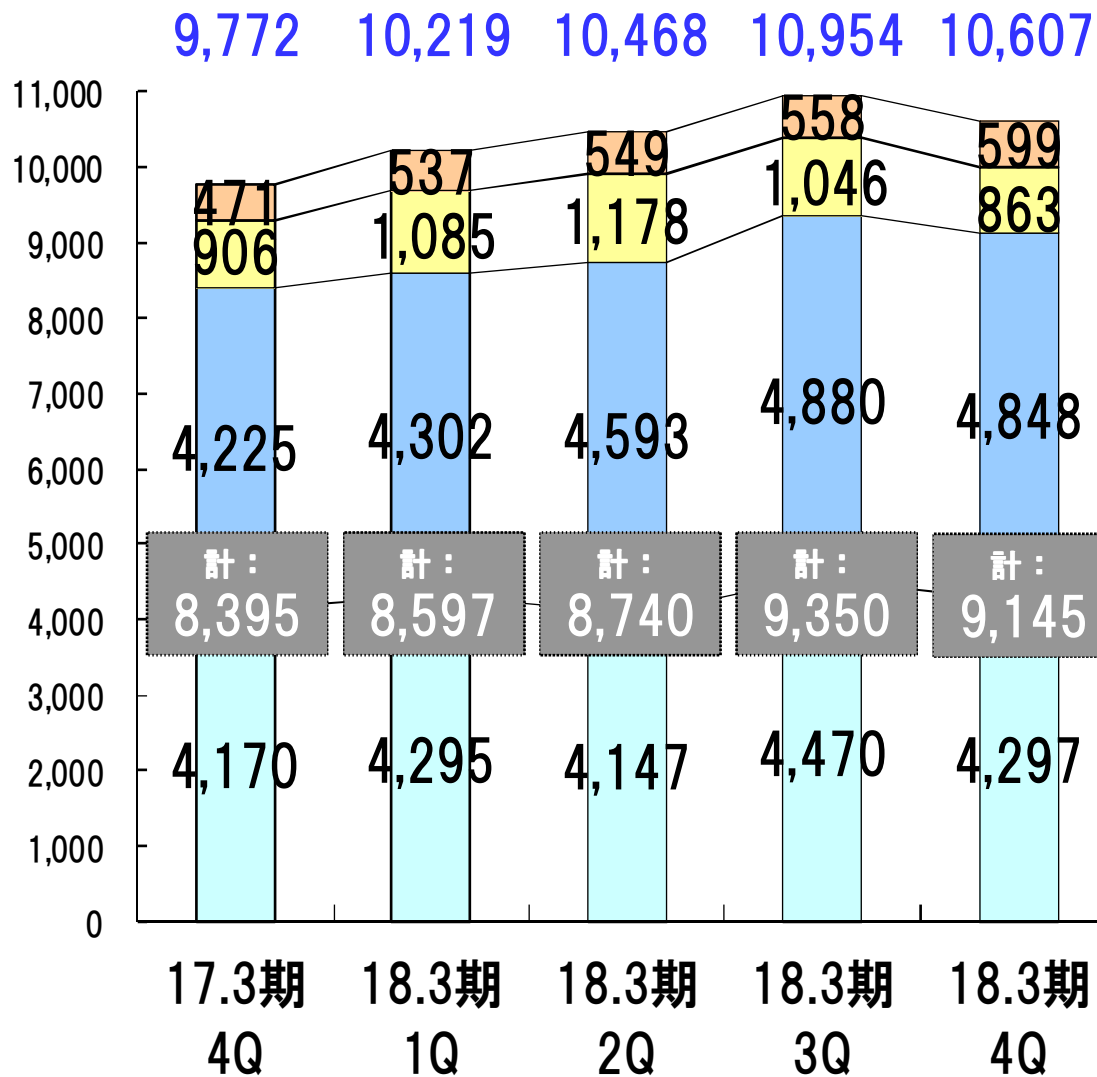
注：AVNIは、オーディオビジュアルナビゲーションの略で、カーオーディオ全般、ナビゲーションシステム等のこと



# 4. 市場別売上高(四半期推移)



単位：百万円



◆対17.3期4Q

工業用 127.3%

・ PLC、サーボアンプ  
向け等で増加

消費者 95.3%

・ ゲーム機向け、デジ  
カメ向け等で減少

車載 (エレ) 114.7%

車載 (全体) 108.9%

車載 (AVN) 103.0%

・ カーエレクトロニクス分野は安全系が牽引。パワートレイン系も増加  
・ カーエレクトロニクス分野の売上が5Q連続でAVN分野の売上を越えた

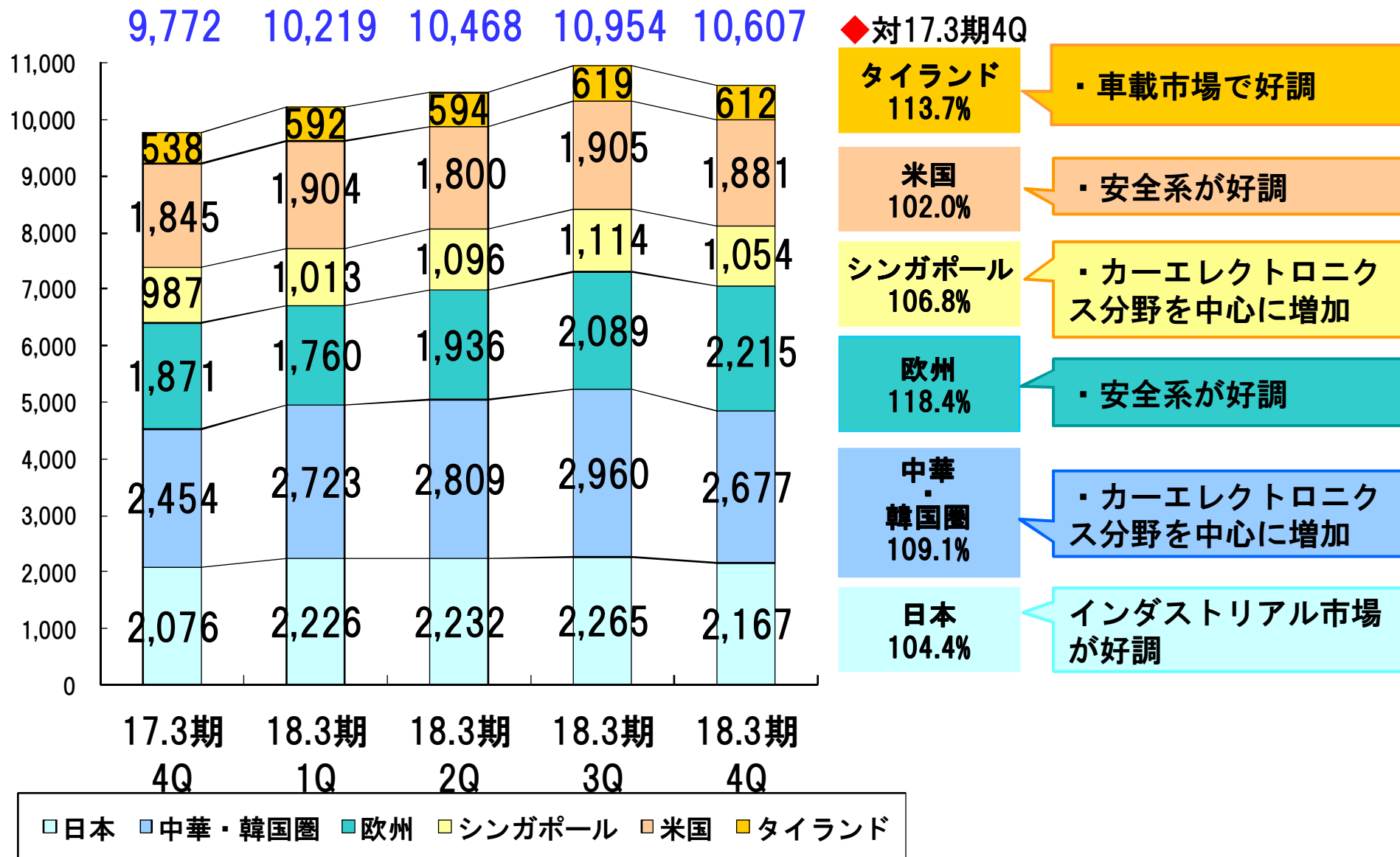
■車載 (AVN) ■車載 (エレクトロニクス) ■消費者 ■工業用



# 5. 地域別売上高(四半期推移)



単位：百万円

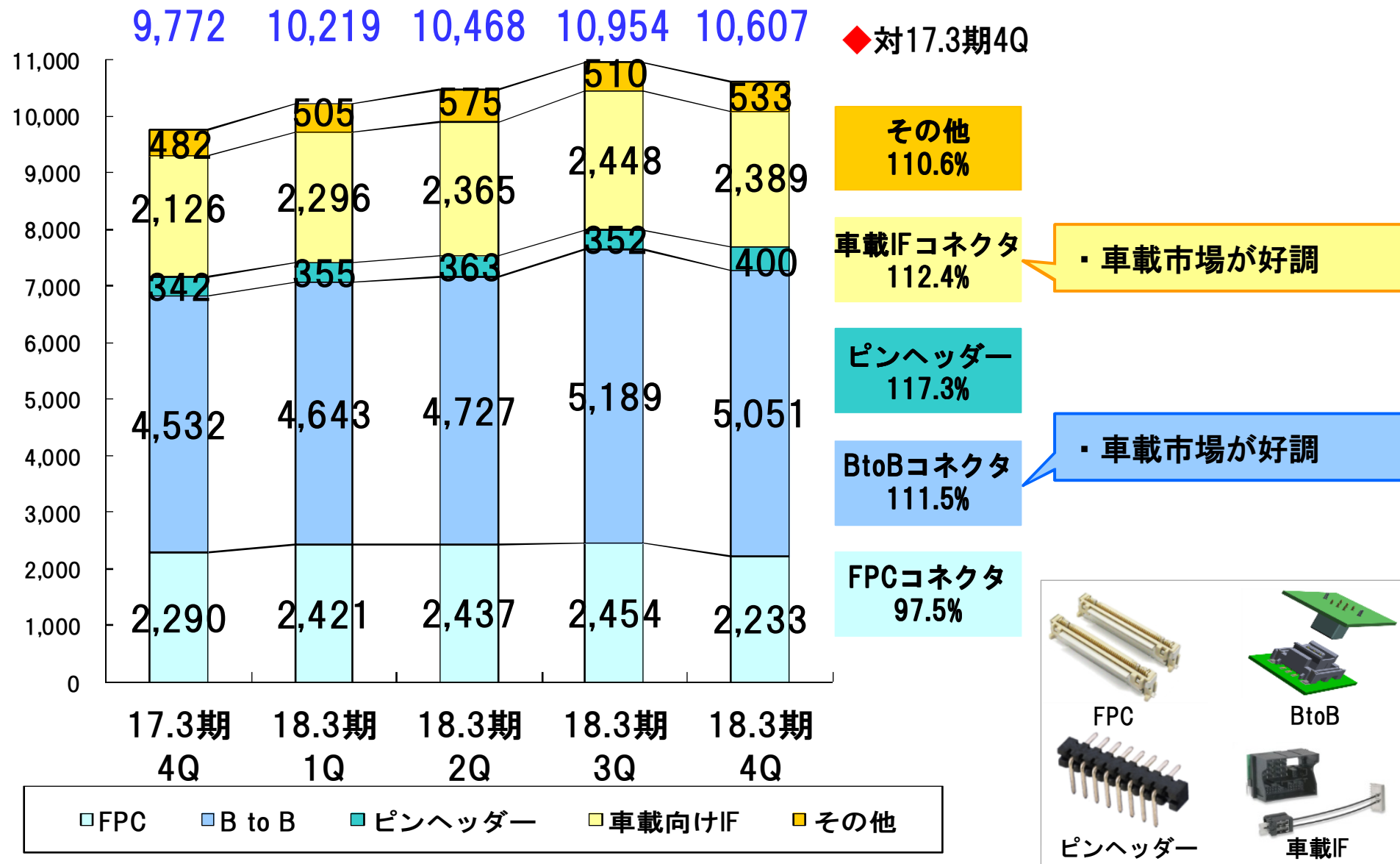




# 6. 製品別売上高(四半期推移)



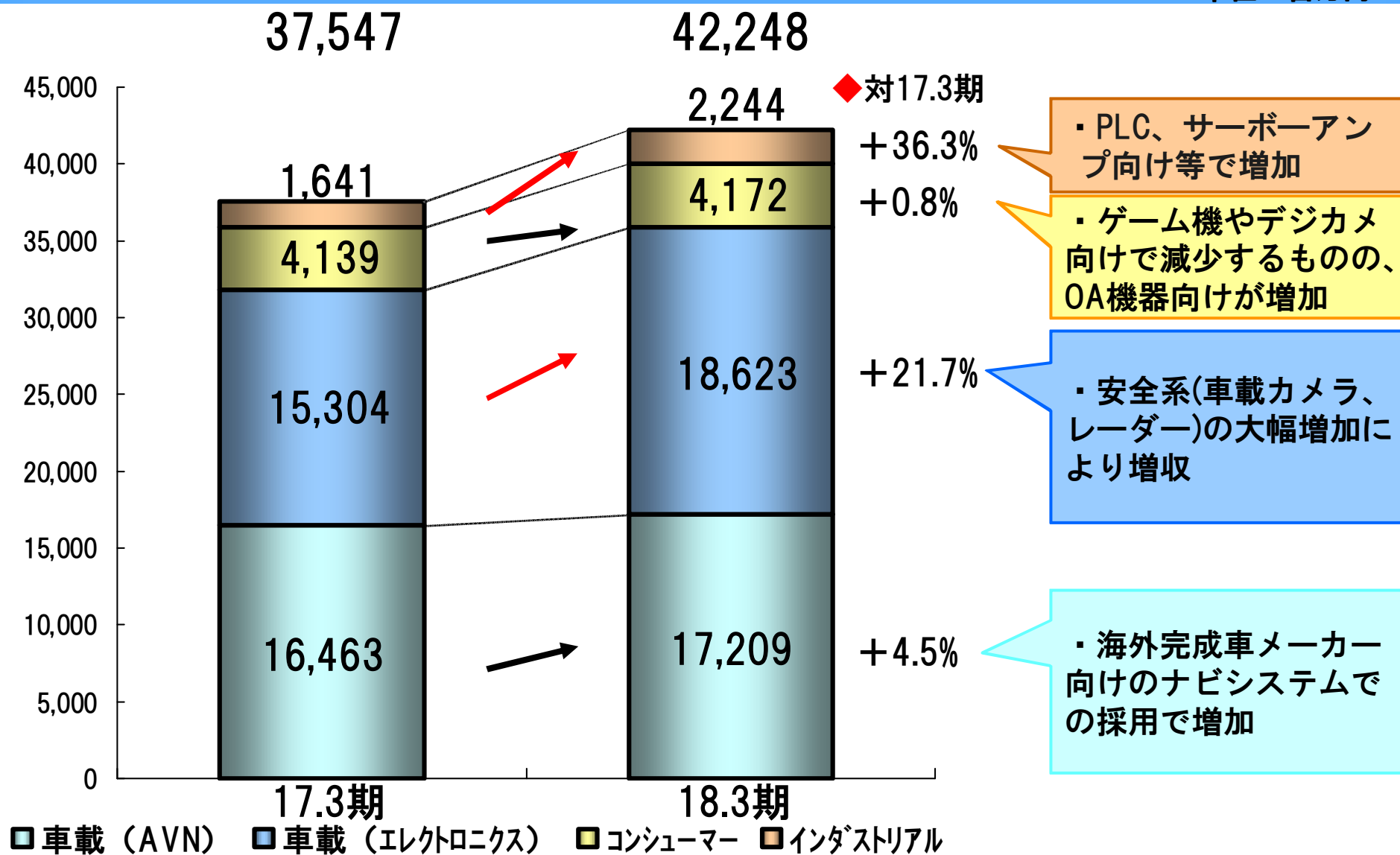
単位：百万円





# 7. 市場別売上高(通期累計)

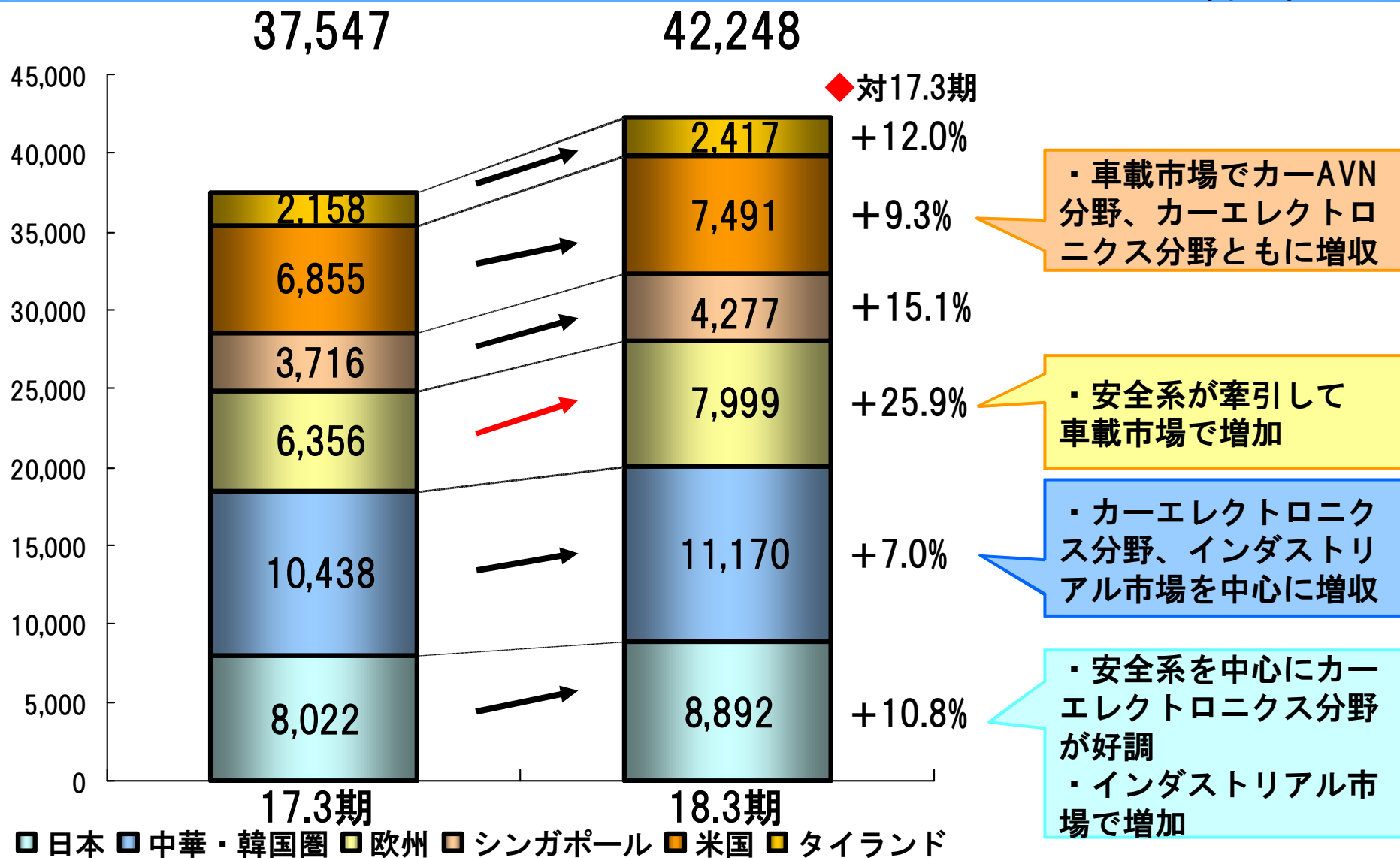
単位：百万円



# 8. 地域別売上高(通期累計)

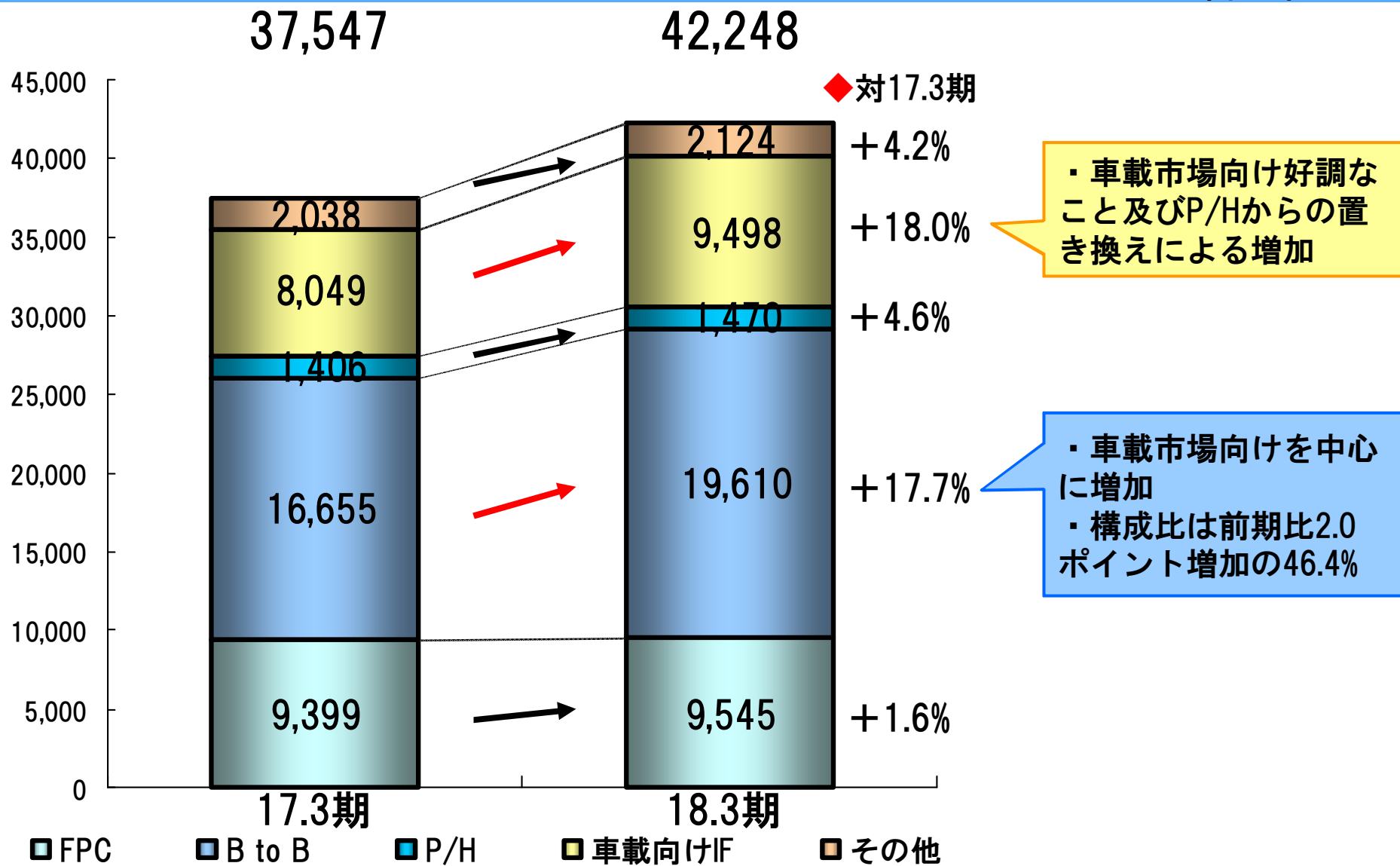


単位：百万円



# 9. 製品別売上高(通期累計)

単位：百万円





# 10. 損益計算書(連結)(前期比)



単位：百万円

	17.3期		18.3期		前期比	
売上高	37,547	100.0%	42,248	100.0%	4,701	112.5%
売上原価	23,758	63.3%	25,751	61.0%	1,993	108.4%
売上総利益	13,788	36.7%	16,497	39.0%	2,708	119.6%
販売管理費	7,127	19.0%	8,070	19.1%	943	113.2%
営業利益	6,661	17.7%	8,426	19.9%	1,764	126.5%
営業外収益	152	0.4%	85	0.2%	△66	43.9%
営業外費用	63	0.2%	639	1.5%	576	1,008.2%
経常利益	6,750	18.0%	7,872	18.6%	1,121	116.6%
特別損益	△45	△0.1%	△360	△0.9%	△314	787.8%
税前利益	6,705	17.9%	7,512	17.8%	806	112.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,875	13.0%	5,456	12.9%	580	111.9%
E P S	207.16		230.47		-	
為替レート (ドル/ユーロ)	109.03円/		110.81円/		1.78円/	
	119.37円		129.45円		10.08円	



# 11. 貸借対照表(連結)(前期末比)



単位：百万円

	17.3期	18.3期	前期末比	増減要因
流動資産	31,828 60.8%	36,421 60.6%	4,592	現金及び預金2,109 受取手形及び売掛金968 原材料及び貯蔵品613
固定資産	20,534 39.2%	23,661 39.4%	3,127	建設仮勘定2,676
資産合計	52,363 100.0%	60,083 100.0%	7,720	
流動負債	7,000 13.4%	10,047 16.7%	3,046	支払手形及び買掛金1,378 未払法人税等380
固定負債	669 1.3%	752 1.3%	82	
負債合計	7,670 14.7%	10,800 18.0%	3,129	
株主資本	42,737 81.6%	47,482 79.0%	4,744	利益剰余金4,746
その他の 包括利益累計額	1,715 3.3%	1,530 2.5%	△184	
非支配株主持分	239 0.5%	270 0.4%	31	
純資産合計	44,692 85.4%	49,283 82.0%	4,591	1株純資産 2,070.36円 (前期末 1,877.72円)
負債・純資産 合計	52,363 100.0%	60,083 100.0%	7,720	

## 12. キャッシュフロー計算書(連結) (前期比)



単位：百万円

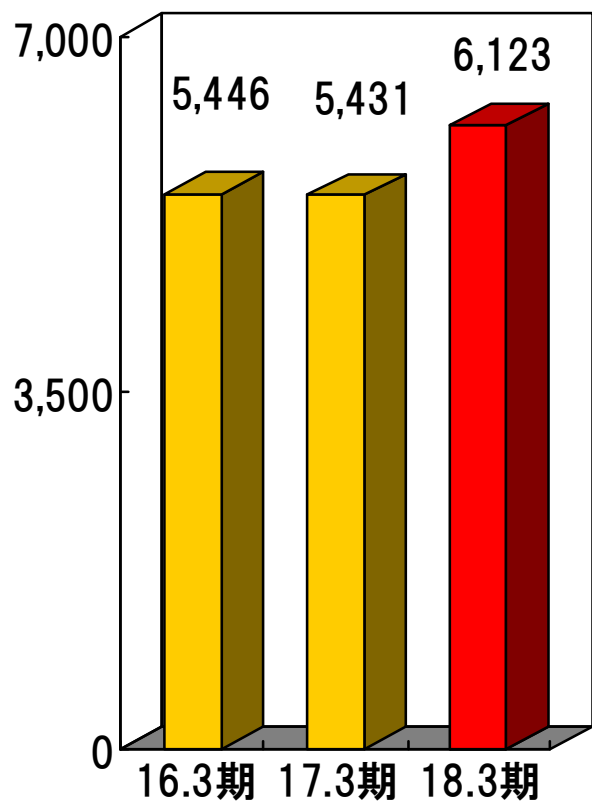
	17.3期	18.3期	増減
営業キャッシュフロー	6,604	9,707	3,102
売上債権増減 (△は増加)	△924	△936	△11
仕入債務増減 (△は減少)	743	1,310	567
投資キャッシュフロー	△5,406	△6,727	△1,320
有形固定資産の取得	△5,182	△6,049	△867
無形固定資産の取得	△249	△73	175
財務キャッシュフロー	1,260	△777	△2,037
短期借入金純増減	-	-	-
現金及び現金同等物の増減	2,191	2,109	△82
現金及び現金同等物期末残	15,242	17,352	2,109



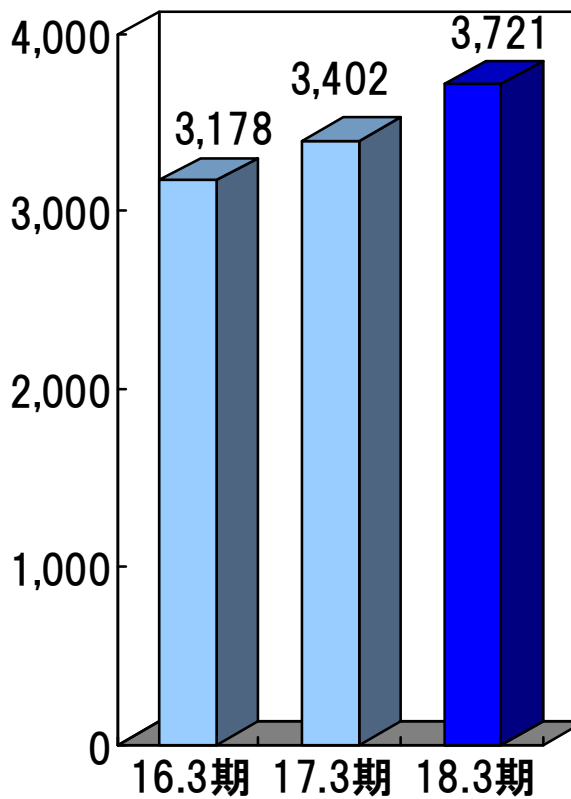
# 13. 設備投資・減価償却・研究開発



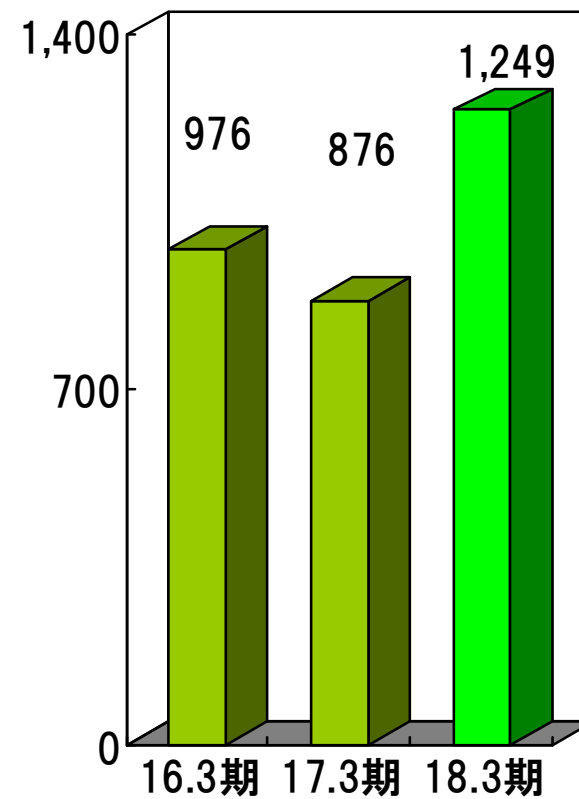
単位：百万円



設備投資




減価償却



研究開発



I . 2018.3期 通期連結決算概要

 II . 2019.3期 連結決算見通し

III . 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況



# 1. 2019年3月期 計画(前期比)



単位：百万円

	18.3期 実績	(上期) (下期)	19.3期 計画	(上期) (下期)	通期 前期比
売上高	42,248	(20,687) (21,561)	45,500	(21,800) (23,700)	3,251 107.7%
営業利益	8,426 (19.9%)	(3,930) (4,496)	8,900 (19.6%)	(4,050) (4,850)	473 105.6%
経常利益	7,872 (18.6%)	(3,867) (4,005)	8,700 (19.1%)	(4,000) (4,700)	827 110.5%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	5,456 (12.9%)	(2,862) (2,593)	6,100 (13.4%)	(2,900) (3,200)	643 111.8%
EPS	230.47円	—	257.67円		
為替	ドル110.81円 ユーロ129.45円	—	ドル105.00円 ユーロ125.00円		



## 2. 2019年3月期 計画(設定条件)

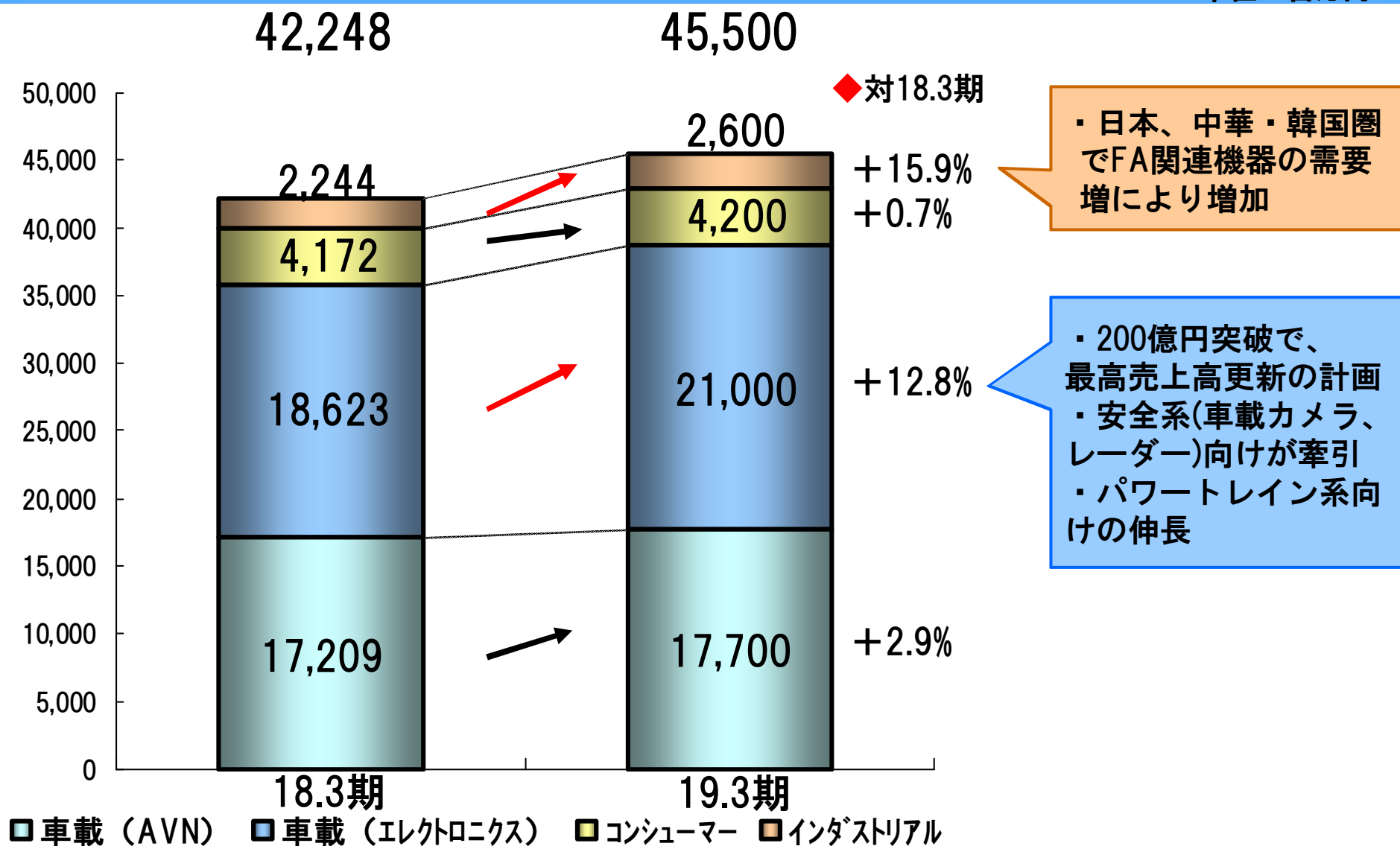


項目	設定条件
	USD 105.00円 / \$
為替	EUR 125.00円 / €
	元 16.50円 / 元
設備投資	7,500百万円
減価償却	4,200百万円
研究開発費	1,400百万円

### 3. 2019年3月期 計画(市場別売上高)



単位：百万円



### (1) 売上高予想 45,500百万円(+3,251百万円)

- **カーエレクトロニクス分野を中心に伸びを計画  
為替が同一の場合は前期比約10%の増加**
- **カーエレクトロニクス分野では  
引き続きレーダーや車載カメラ向けが牽引。  
パワートレイン関連向けも、既に搭載されている  
DCDCコンバーター以外のインバーター等でも売上が増加。  
車載市場での主力分野に成長**

### (2) 営業利益予想 8,900百万円(+473百万円)

- **自動化、合理化による原価低減活動、  
キープロセスの内製化の拡大による原価率の改善等  
により営業利益が増加**
- **営業利益率は前期営業外であった南通工場関連費用が、  
今期から営業内での計上となること等で0.3ポイント下落**

中期経営計画に合わせ下記の投資を実施していく

→2019.3期設備投資 7,500百万円予定

(前期比122.5%)

### (1) 新製品の開発投資

マーケティング部門、技術部門が連携して、  
伸長する市場に対して、ニーズを先取りした新製品を  
スピード開発

### (2) コスト力強化

- ・ 原価低減を目的とした積極的な合理化投資
- ・ キープロセスの内製化比率拡大推進  
(成形、プレス、メッキ)

### (3) 増産対応

南通工場のスムーズな立ち上げ



I. 2018.3期 通期連結決算概要

II. 2019.3期 連結決算見通し

 III. 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

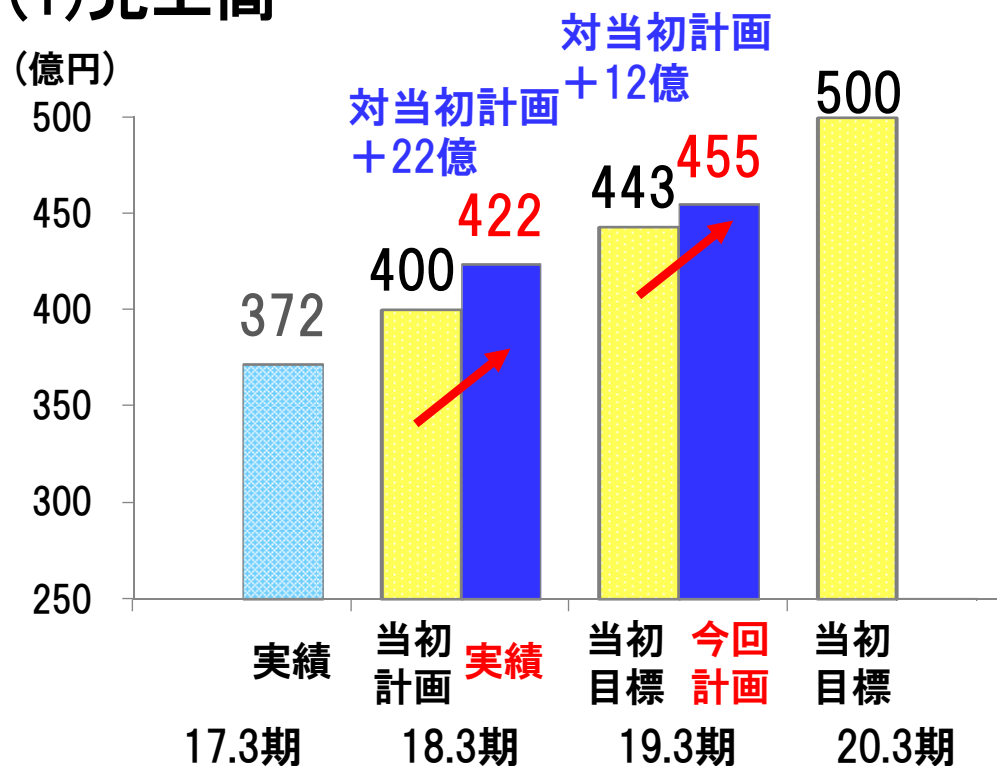


# 1. 中期経営計画(18.3期～20.3期)進捗状況

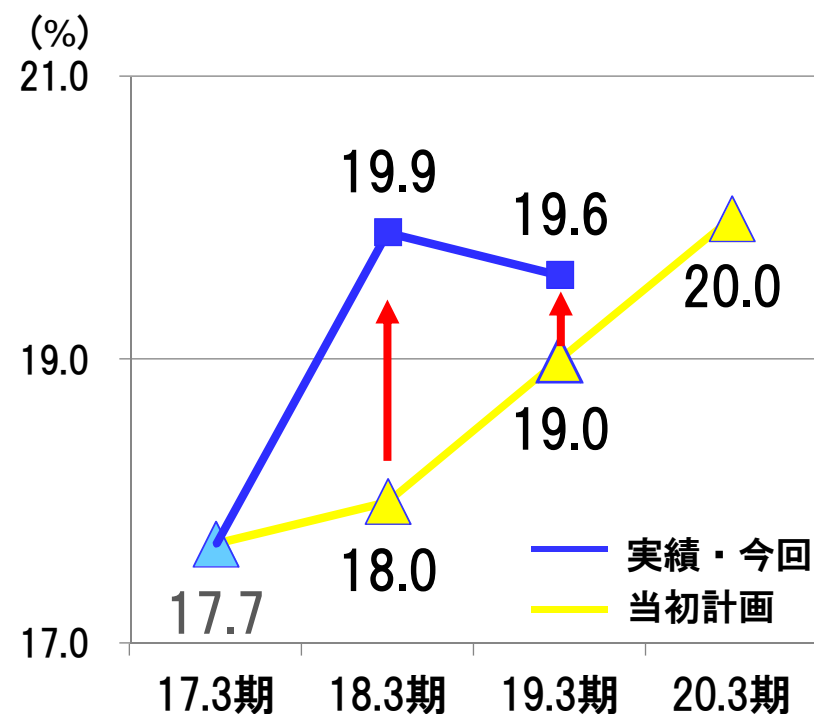


売上高、営業利益率ともに2017年5月公表の計画を上回る水準で進捗中。  
今期後半から売上高500億円ペースとなることを目指す

## (1) 売上高



## (2) 営業利益率



為替前提	17.3期実績	中期経営計画	18.3期実績	19.3期今回計画
USD	109.03円	110.00円	110.81円	105.00円
EUR	119.37円	120.00円	129.45円	125.00円
元	16.2円	15.8円	16.74円	16.5円

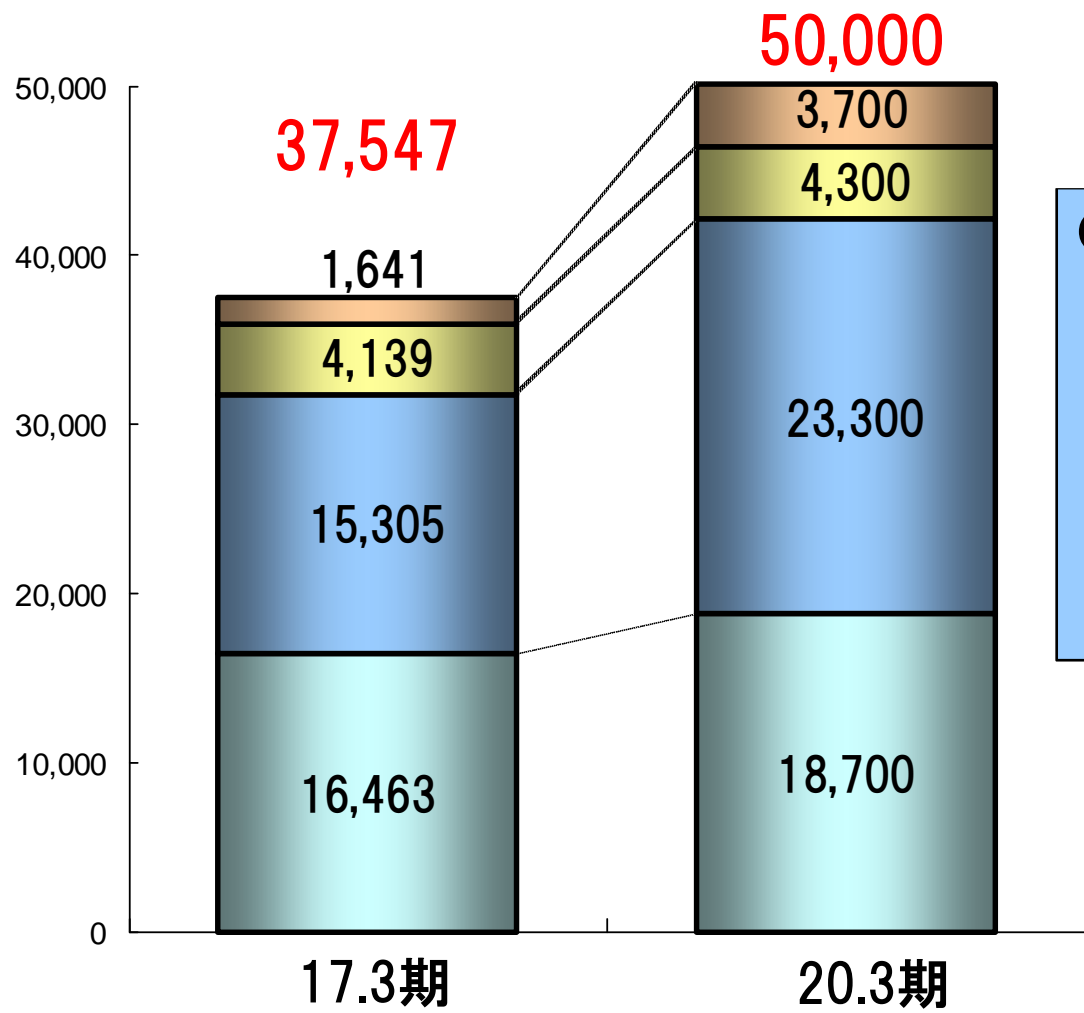


## 2. 中期目標(市場別売上高)



単位：百万円

目標：2020年3月 売上500億円



- 伸ばす分野
  - Safety分野 (レーダー、カメラ)
  - パワートレイン分野
  - Infotainment、スイッチ、クラスター
  - FA関連機器

■ 車載 (AVN) ■ 車載 (エレクトロニクス) ■ コンシューマー ■ インダストリアル





## 長期ビジョン 売上1,000億円に向けた基盤整備

### 重点施策

伸びる市場(車載市場)の攻略

第二の柱(産業機器向け)の確立

生産力とコスト力の強化



### 長期ビジョン 売上1,000億円

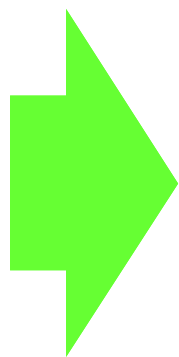
⇒変化を捉え、チャンスとすることが必要

■マーケティングの強化

■顧客課題の抽出

} 他社優位の製品開発

ソリューション提案型営業の推進



伸びる市場(車載市場)の攻略

第二の柱(産業機器向け)の確立

### 重点施策①

## 伸びる市場(車載市場)の攻略

#### ■イリソにとってのチャンス

→自動車産業での大きな変化：「電動化」「自動運転」  
駆動、運転方法の変化に伴い、搭載が増える  
5つのアプリケーション向けを“PA25”というProject化を  
行い推進強化中

#### ■進捗

- (1)駆動の変化によって増加するPower系では、現在三次元可動BtoBコネクタ“Z-Move™”が採用されているDCDCコンバーター以外でも受注が進んでおり、今後高い伸び率を示す
- (2)運転方法の変化によって増加するSafety関連のレーダー向けは既にカーエレクトロニクス分野で最も大きい売上規模へ。車載カメラ向けは、マーケティング・営業・技術・生産技術の人員を増強し強力推進中

### 重点施策②

## 第二の柱(産業機器向け)の確立

### ■イリソにとってのチャンス

→通信市場での変化：5Gの到来

モノづくりでの変化：Society5.0、Industry4.0等

### ■施策

(1)ロボット組立適合コネクタの拡販強化

(2)FA関連市場での徹底した受注獲得

(3)「通信」、「ロボット・AI」プロジェクトの発足・強力推進

(4)グローバルビッグ顧客の攻略

①新規口座開設顧客の深堀 ②未開拓顧客の攻略

(5)協業による顧客提案力の向上

(6)間接販売の強化

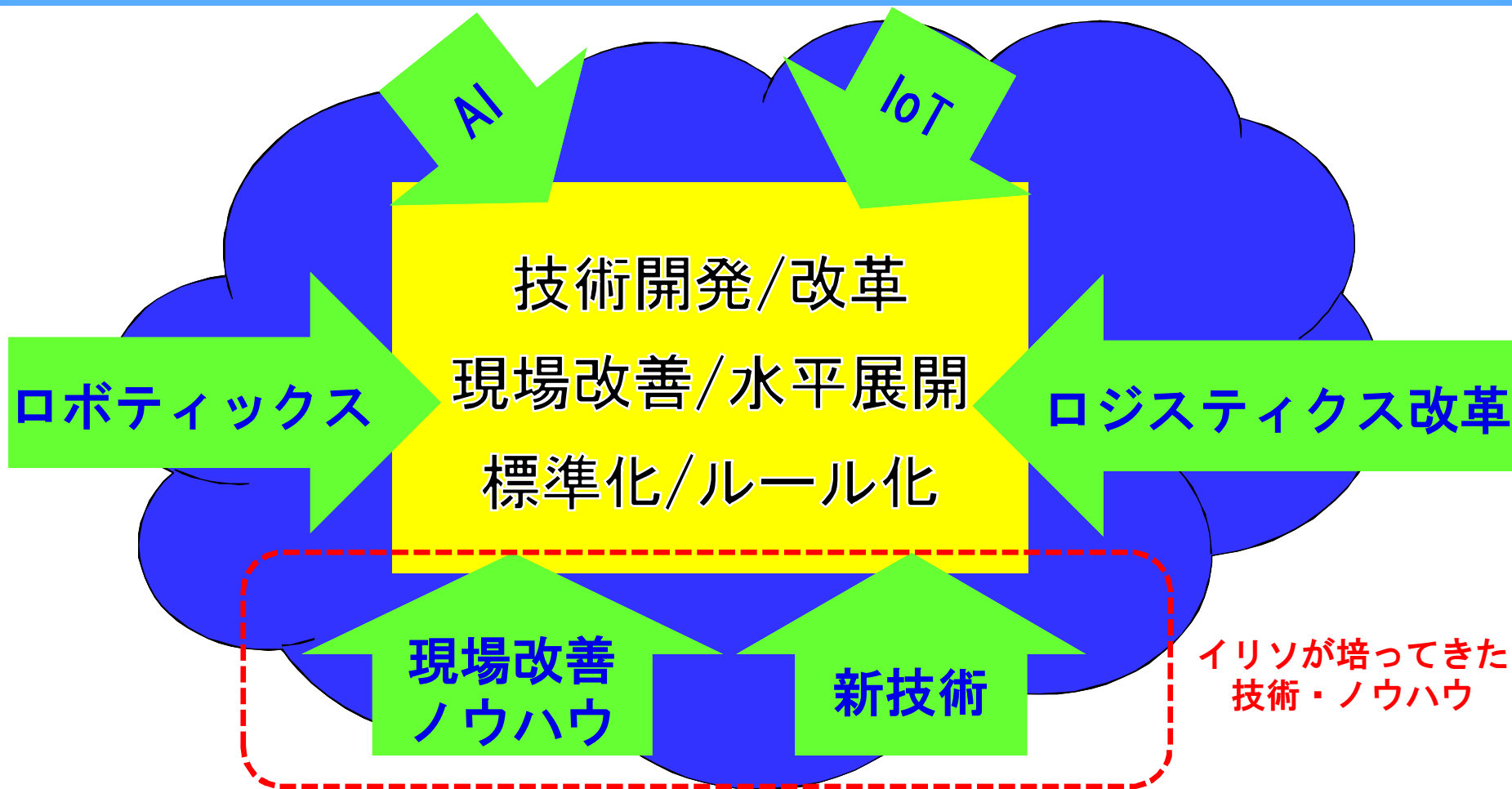
## 7. 生産力の強化(新工場)

### 売上1,000億円に向けて中国とメキシコに新工場を設立

	中国・南通工場	メキシコ
場所	江蘇州南通(ナントン)市	グアナフアト州レオン市
土地/建屋面積	約36,000㎡/約26,000㎡	約54,000㎡/約35,000~40,000㎡
販売先	中華圏他	アメリカ/EU圏他
状態	2018年4月開工	2019年建設開始予定
特徴	IoTを駆使した新生産システムの構築。「スマートファクトリー化」	

竣工した  
南通工場





## 生産性400%向上の実現



### (1) ガバナンスの強化

株主総会で監査等委員会設置会社への移行を付議

### (2) 人財の育成

- ・ダイバーシティマネジメントと働き方改革の推進
    - ・女性管理職候補教育の充実など
    - ・多様な人財の労働環境の整備
- ワークライフバランスの実現

## 10. 経営目標



	17.3期 実績	18.3期 当初計画	18.3期 実績	19.3期 当初目標	19.3期 計画	20.3期 目標
売上高	375億円	400億円	422億円	443億円	455億円	500億円
営業利益	66億円	72億円	84億円	84億円	89億円	100億円
営業利益率	17.7%	18.0%	19.9%	19.0%	19.6%	20.0%
当期純利益	48億円	52億円	54億円	62億円	61億円	73億円
総資産	523億円	570億円	600億円	630億円	630億円	700億円
自己資本 比率	84.9%	84.7%	81.6%	85.7%	84.1%	85.8%
設備投資	54億円	75億円	61億円	75億円	75億円	75億円
研究開発費	9億円	12億円	12億円	13億円	14億円	15億円
ROE	11.7%	11.3%	11.7%	12.0%	11.7%	12.8%
為替前提	ドル109.03円 ユーロ119.37円 元16.2円	ドル110.00円 ユーロ120.00円 元15.8円	ドル110.81円 ユーロ129.45円 元16.74円	ドル110.00円 ユーロ120.00円 元15.8円	ドル105.00円 ユーロ125.00円 元16.5円	ドル110.00円 ユーロ120.00円 元15.8円

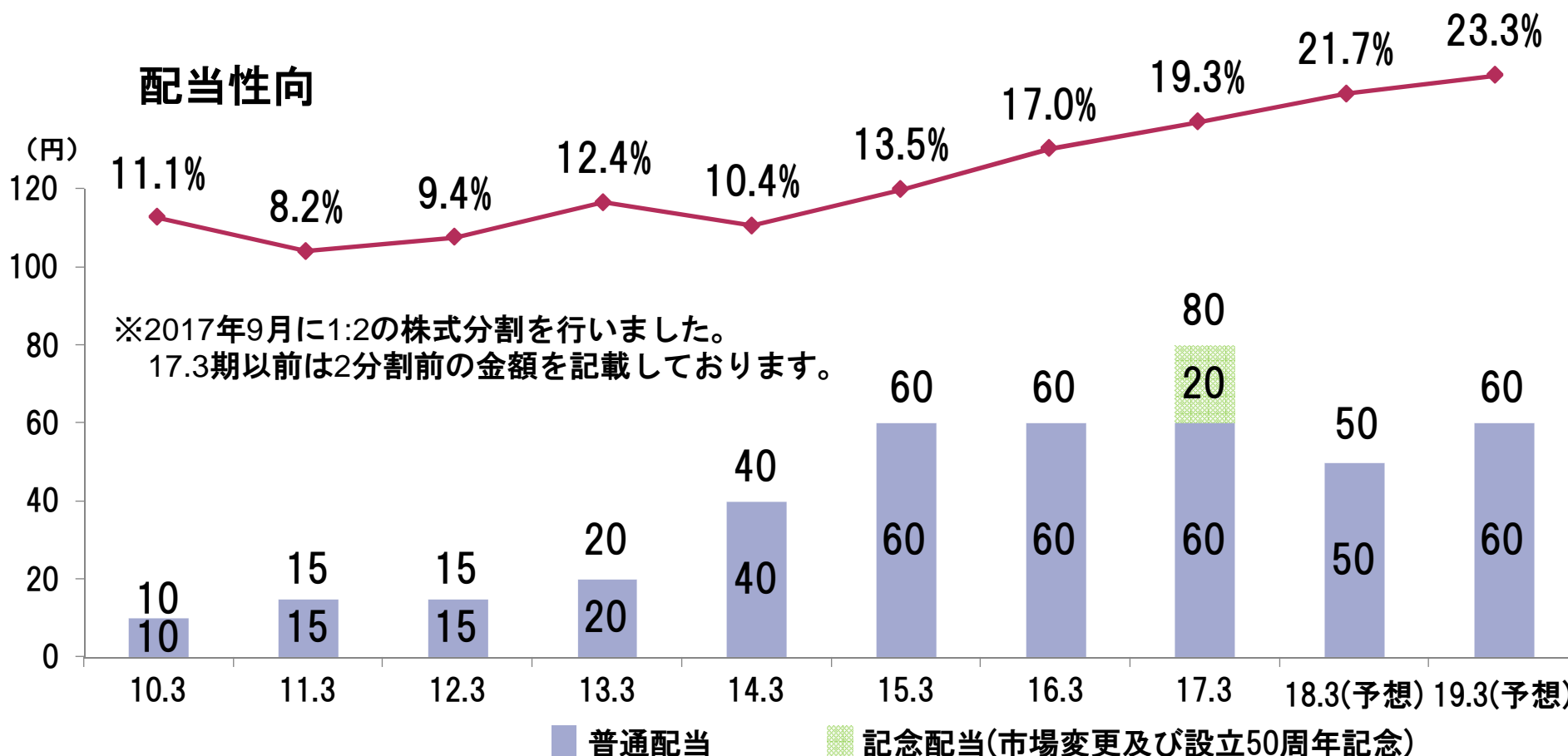
◆株主還元について・・・配当性向30%を目指す



# 11. 株主還元



- ・ 18.3期配当予想を45円から50円に上方修正
- ・ 19.3期は60円予想
- ・ 中期経営計画では**配当性向30%**を目指しています



会 社 名	イリソ電子工業株式会社
事 業 内 容	各種コネクタの製造・販売
設 立 年 月	1966年（昭和41年）12月
社 員 数	3,367名（平成30年3月31日現在）
資 本 金	5,640百万円（平成30年3月31日現在）
本 社	神奈川県横浜市港北区新横浜2-13-8
営 業 拠 点	
国 内	本社、岩手県、茨城県、愛知県、大阪府
海 外	シンガポール、香港、アメリカ、ドイツ、タイ、韓国 中国（上海、大連、天津、蘇州、深圳、重慶）、マレーシア、 台湾、インド
研 究 開 発	本社（イリソテクノロジーパーク）、 川崎（生産技術センター）、上海R&Dセンター
工 場	茨城県、中国（上海、南通）、フィリピン、 ベトナム（ハイズン）

## コネクタの種類

### 基板対基板コネクタ（BtoBコネクタ）

プリント基板の接続用に開発されたコネクタの総称でボード・ツー・ボードコネクタ（ボードtoボードコネクタ）とも呼ばれる。垂直接続、平行(スタッキング)接続、水平接続など組み合わせで、さまざまな接続が可能となる。B to B（ビー・ツー・ビー）は、当社の登録商標として市場で広く浸透している。

### FPC/FFCコネクタ

FPC基板（Flexible printed circuits）やFFCケーブル（Flexible flat cable）の接続用に開発されたコネクタの総称。コネクタの挿入時に力を加えずにロック可能なZIF（Zero insertion Force）タイプ、挿入したときに力が発生するNON-ZIFタイプがある。

### I/Fコネクタ

I/Fとは、インターフェイスの略で、機器間の信号の接続を行うコネクタのことで、I/O（インプット/アウトプット）コネクタとも呼ばれる。カーナビ、PCなどさまざまな機器の側面（裏・表面）に装着され、機器への電源供給、音声・映像信号データなどの入出力を行う。

### ピンヘッダー

線材をカット加工した“ピン（電導体）”をハウジング（樹脂材でできた絶縁体）で支えたプラグ（オス側）コネクタの基本形であり、さまざまな分野・機器の内部接続（基板間接続）に使用されている。横から見ると、生け花の花止め“けんざん”のように見えるのが特長。メス側はソケットと呼ばれる。

この資料に記載されております業績の予想数値につきましては、本資料の発表日現在で得られた入手可能な資料に基づいて作成したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めて参りますが、本資料記載の見通しのみに依拠してご判断されることはお控え下さるようお願いいたします。

なお、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。